

# 大豆栽培管理情報 (第3号)

## 1. 6月中旬の播種作業

- ・生育量確保のため、播種量を増やして目標栽植本数を確保しましょう (表1)。
- ・大麦跡に作付けされる方は、大麦収穫後、すぐに播種できるように準備しましょう。
- ・麦跡大豆は麦稈の腐熟に窒素が必要なため、基肥以外に耕起前に硫酸を施用しましょう (表2)。

表1 目標栽植本数と播種量・播種機設定の目安

品種	目標栽植本数 (本/10a)	播種量(大粒) <sup>※1</sup> (kg/10a)	スプロケット		目皿
			目皿側	車輪側	
エンレイ	16,000~18,000	5.6~6.3	9~10	14	B-2
			13	10	B-22 <sup>※2</sup>
シュウレイ	15,000~18,000	6.2~7.4	10	13~14	B-3

※1 百粒重はエンレイ 31.2g、シュウレイ 37.1gで換算、苗立率90%の場合

※2 大麦跡等で目標播種量が入らない場合、目皿はB-22を使用する。

表2 施肥の目安

資材名	圃場条件	施用量
粒状貝化石 発酵鶏ふん	全圃場	150~200kg/10a
		100~200kg/10a
BB084 (N:P:K =10:18:24)	普通田	20kg/10a
	砂壤土、低地力田	30kg/10a
	麦跡	上記+硫酸 10kg/10a

## 2. 培土作業

- ・培土作業は、圃場条件の良い時に、晴れ間を見て早めに実施しましょう。
- ・作業前に、培土板や耕うん爪を点検しましょう。
- ・適正な作業速度で、株元にしっかりと土をかけましょう。

培土は適期に2回！  
1回目は遅れずに、  
2回目は確実に  
実施しましょう

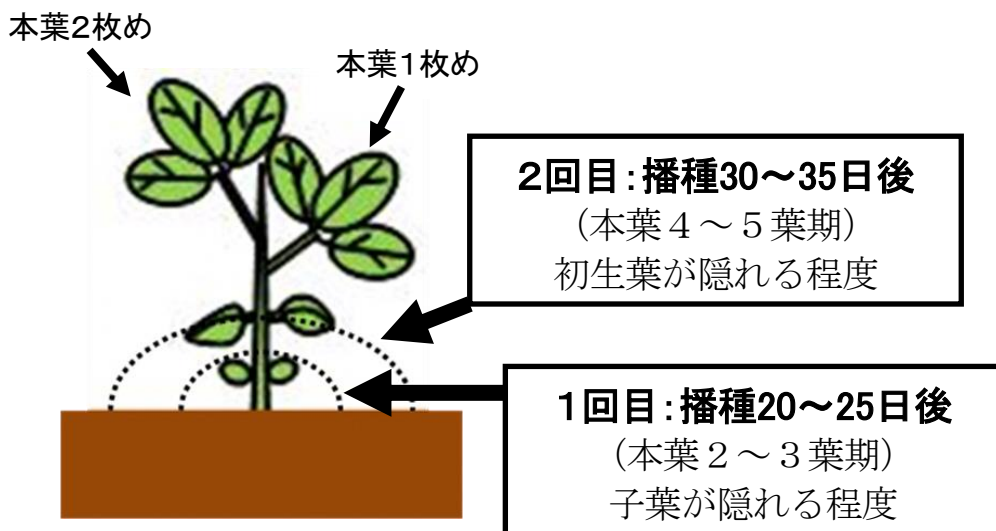
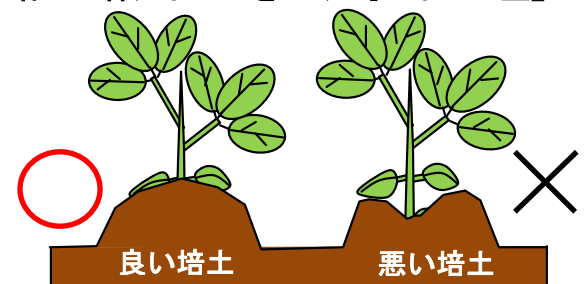


図1 培土の目安

~培土は株元まで土をかけて『かまぼこ型』に~



“良い培土”で

- ①排水の促進と湿害防止、②根量と根粒菌の増加、③雑草の抑制、④倒伏の防止 が図られます！

## 3. 排水溝の点検・手直し

- ・生育量の確保には、本葉2~3葉期頃までの排水対策が最も重要です。
- ・圃場に水が溜まらないよう、播種後および培土後には必ず排水溝を点検し、額縁排水溝や排水口に確実に連結しましょう (図2)。
- ・降雨後にも溝の連結や排水溝の崩れの手直しを行い、雨水を停滞させないようにしましょう。



排水溝を連結し、  
水尻へつなげる

図2 排水溝の連結

## ！ 難防除雑草に注意しましょう！

- ・近年アサガオ類やイヌホオズキ類、ヒユ類といった、難防除雑草の発生が問題となっています。これらの雑草は生育が早く、繁殖力が旺盛であり、圃場内で生育が進むと防除が困難になります。
- ・圃場内外での早期発見に努め、発見した場合は、速やかに除去しましょう！



マルバルコウ



マメアサガオ



イヌホオズキ類



ヒユ類

図3 主な難防除雑草 (幼植物)

見つけたら、  
すぐに抜き取りを！